

今日の福音で、イエス様は「ぶどうの木の例え」を聞かせてくださいました。まず、イエス様はご自分を眞のぶどうの木と言われ、続いて、天の御父を農夫と言われました。それから、御父がそのまことのぶどうの木をどのように育てられるかについて教えてくださいました。御父はぶどうの木に繋がっていながらも、実を結ばない枝を取り除き、更に、実を結ぶものはもっと豊かに実が結ばれるように手入れをなさいます。その取り除かれた枝は、外に投げ捨てられて枯れますが、その後、再び集められて火に投げ入れられて焼かれてしまいます。以上がこの例え話の大体の内容ですが、この話にはいくつかのキーワードがあり、今日はそれについて分かち合いたいと思います。

まずは「つながり」についてです。わたしたちは皆、幼児洗礼、或いは、成人洗礼を通して、まことのぶどうの木であるイエス様につながり、その枝となりました。このつながりは人によるのではなく、水と聖霊によるものでした。併せて、このつながりは人間的な気持ちや瞬間的な衝動によってではなく、神様の聖なる計らいによることでした。神様は私たちを罪と死から救い、わたしたちを通してもっと多くの人たちをも救おうとされて、わたしたちをご自分のひとり子イエス様につないでくださったのです。それで、まず、イエス様によって聖化した洗礼の水で、自分では洗えない原罪と本罪を洗ってくださり、聖霊を注いで私たちが神様ご自身の聖性に与えるようにしてくださったわけです。こうして、私たちはまことのぶどうの木であるイエス様の枝となりましたが、それは私たちが選んだことではなく、神様ご自身がわたしたちを選ばれてそうなったのです。

次のキーワードは「実を結ぶ」ということです。枝に実が結ばれるためには、木からの水と栄養素が十分に届かなければなりません。わたしたちも同様で、わたしたちがイエス様につながっている限り、イエス様は常に豊かな水と栄養素を与えられて私たちを育まれます。その水と栄養素は勿論、イエス様の御言葉とご聖体でしょう。わたしたちはイエス様の御言葉によって渴きを癒し、また、ご聖体を通して愛の糧を得ることができます。その御言葉とご聖体はわたしたちの魂を清

くし、また、^{すこ}健やかにしてくれて、わたしたちがそれぞれの^{せいかつ げんば}生活の現場で、^{つか}疲れずに^い生きながら、
^{ゆた}豊かな^み実を^{むす}結ぶことができるようにしてくれるのです。^{じじつ}事実、^{しんこう}信仰のある^{ひと}人たちは、この^{みことば}御言葉と
^{せいたい}ご聖体から^{はな}離れたら、^よ世の中の^な色々な^{いろいろ}誘惑や^{あく}悪にさらされて、その^う飢え^{かわ}渴きのあまりに^か枯れてしま
^{ちから}い、^{うしな}力を失ってしまうわけです。そうすると、^{わたし}私たちは^{じぶん}自分も^{すく}救えないばかりか、^{わたし}私たちを^{とお}通
^{おほ}してもっと^{ひと}多くの人を^{すく}救おうとされる^{かみさま}神様の^{けいかく}計画に、^{なん}何の^{やく}役にも^た立たないものとなってしまいます。
^{けっきょく}そして^{けつぎよく}結局、わたしたちは^ままことの^きぶどうの木である^{イエス}イエス様から^き切られてしまい、^か枯れた^{えだ}枝と
^ひなって^な火に^い投げ入れられるでしょう。^{イエス}イエス様はわたしたちが^{さう}そうならないように、^{きょう}今日の^{ふくいん}福音で
^{あい}愛と^{いつく}慈しみを^こ込めた^{ことば}言葉で^{さと}諭してくださったのです。

イエス様は今日の福音の最後に、「あなたがたが^{ゆた}豊かに^み実を^{むす}結び、わたしの^{でし}弟子となるなら、そ
^{ちち}れによって、わたしの^{えいこう}父は^う栄光をお受けになる。」とおっしゃいました。ここで^{かんが}考えたい^み三つ^め目
^さの^{でし}キーワードがあります。それは「^{イエス}イエス様の^{でし}弟子となる」ということです。^{イエス}イエス様は、^{でし}弟子と
^みなってから^{むす}実を^{むす}結ぶのではなく、^み実を^{むす}結んでから^{でし}弟子となると言われました。つまり、^{イエス}イエス様の
^{みことば}御言葉を^き聞き、また、^{せいたい}ご聖体を^{いただ}頂いても、^{じっさい}実際の^み実が^み見つからなかったら、まだ^{イエス}イエス様の^{でし}弟子
^いとは言えないということです。むしろ、^{イエス}イエス様の^ままことの^{でし}弟子となるためには、^{みことば}御言葉と^{せいたい}ご聖体
^いの意味を^{ひとりひとり}一人一人の^{せいかつ}生活の^{げんば}現場で^い生かして^{じっせん}実践しなければなりません。併せて、^{あわ}私たちが^{わたし}陥りが
^{ゆうわく}ちな^{ゆうわく}誘惑があります。それは、^{さき}先ほど^い言った^いつながりの^{こと}ことで、^{イエス}イエス様の^{みことば}御言葉と^{せいたい}ご聖体から^{はな}離
^{きょうかい}れても、^{はな}すなわち、^{きょうかい}教会から^{はな}離れても、^{ことば}み言葉と^{せいたい}ご聖体の^い意味を^{じっせん}実践することができるとい
^{わく}惑です。^{もちろん}勿論、^いできない^いわけでは^あありませんが、^さそうすると^{イエス}イエス様が^おおっしゃった^いつながりや、
^{イエス}イエス様の^{うち}うちに^と留まる^{こと}ことに^{そむ}背く^{こと}ことになるでしょう。それが^いどれほど^{イエス}イエス様や^{かみさま}神様を^{かな}悲しま
^{わたし}せる^{こと}なの^{こと}のかについて、^{わたし}私たちは^き気^{つか}を使わねば^{おち}ならない^{こと}と思います。^{イエス}イエス様によって^さ直接に
^{はぐく}育^しまれた^し使徒^{たち}たちですら、^{イエス}イエス様の^{みことば}御言葉と^{せいたい}ご聖体から^{はな}離れた^{こと}ことは^あありませんでした。^{わたし}私

ちがその使徒たちより優れていると思うのはあり得ないことでしょう。

使徒たちはイエス様とのつながりを忠実に守りながら、ステファノの殉教からもっと激しくなった迫害のさなかでも、至る所で多くの実を結びました。彼らはあちこちに教会を建て、信じる人の数も増えましたが、それはイエス様が彼らのつながりの中で共に働いてくださった結果でした。実際、イエス様は迫害の先頭に立っていたパウロを回心させ、使徒たちと一緒に活動するようにしてくださいました。今日の第1朗読で、パウロは自分を恐れていたエルサレムの他の弟子たちに疑われましたが、イエス様の使徒たちには認められました。使徒たちはダマスコでパウロが結んだ実、すなわち、彼の活動を聞いて、自分たちの仲間として認め、パウロもイエス様とのつながりに与えるようにしてくれたのです。その後、イエス様は激しい迫害をきっかけにあちこちへ散ってしまった使徒たちや弟子たちをカづけられ、多くの人々を悔い改めさせ、ご自分との愛のつながりを広げてくださったのです。今日の第2朗読で、使徒ヨハネはイエス様が与えてくださった愛の掟について語っています。その「互いに愛し合いなさい。」という掟を守ることによって、わたしたちはイエス様と繋がりの中で、神様のうちにとどまり、神様もわたしたちのうちにとどまってくださいます。こうして、わたしたちの信仰の働きはもっと豊かな実を結び、神様の慈しみと愛の救いの計画は完成され続て行くのです。

ところで、今日の福音でイエス様は自らを「まことのぶどうの木」と言われました。「まことのぶどうの木」があるということは、「偽のぶどうの木」もあるということでしょう。実際、世の中には色々な偽物があり、それらは私たちをイエス様とのつながりから遠ざけようとしています。しかも、教会の中にもそういう偽の木がありえます。わたしたちはそれをわきまえるために注意を払うべきです。イエス様の御言葉とご聖体によって育んでいない木は、いかに豊かに見えても偽のぶどうの木に過ぎません。信者の皆さんがいつもイエス様につながって豊かな実を結ぶ枝とな

るように、お祈り^{いの}いたします。